

共謀罪にレッドカード

in 熊谷!!

共謀罪に反対する市民集会

6月27日（火）熊谷市立文化センター文化会館にて

18:00開場（18:15開会）

入場無料 事前申込み不要 **映画も無料！！**

【インタビュー講演】

私は逮捕なんてされたいと思っているアナタへ！

<作家> 雨宮 処凛氏

<インタビュアー> 弁護士 吉廣 慶子

【映画上映】

「シチズンフォー スノーデンの暴露」

第87回アカデミー賞

長編ドキュメンタリー映画賞受賞作品



主催 埼玉弁護士会

お問い合わせ

:048-863-5255

詳しくはこちら

→



講師及び上映映画のご紹介

【雨宮 処凜さん】

1975年、北海道生まれ。作家・活動家。2000年、自伝的エッセイ『生き地獄天国』（太田出版/ちくま文庫）でデビュー。以来、「生きづらさ」についての著作を発表する一方、イラクや北朝鮮への渡航を重ねる。2006年からは新自由主義のもと、不安定さを強いられる人々「プレカリアート」問題に取り組み、取材、執筆、運動中。メディアなどでも積極的に発言。311以降は脱原発運動にも取り組む。07年に出版した『生きさせろ！ 難民化する若者たち』（太田出版/ちくま文庫）はJCJ賞（日本ジャーナリスト会議賞）を受賞。

著書に『プレカリアートの憂鬱』（講談社）、『雨宮処凜の闘争ダイアリー』（集英社）、『14歳からの原発問題』『14歳からわかる生活保護』『14歳からわかる生命倫理』『14歳からの戦争のリアル』（河出書房新社）、『小心者の幸福論』（ポプラ社）、『何もない旅 何もしない旅』（光文社文庫）、『排除の空気に唾を吐け』（講談社新書）、小説『バンギャルア ゴーゴー』（講談社文庫）、『バカだけど社会のことを考えてみた』（青土社）、『命が踏みにじられる国で、声を上げ続けるということ』（創出版）、『仔猫の肉球』（小学館）、『生きづらい世を生き抜く作法』（あけび書房）、『一億総貧困時代』（集英社インターナショナル）、『自己責任社会の歩き方 生きるに値する世界のために』（七つ森書館）など多数。

「反貧困ネットワーク」世話人、「週刊金曜日」編集委員、フリーター全般労働組合組合員、「こわれ者の祭典」名誉会長、「公正な税制を求める市民連絡会」共同代表。 オフィシャルブログ <https://ameblo.jp/amamiyakarin/> 公式サイト <http://amamiyakarin.com/>

【シチズンフォー スノーデンの暴露】

2014年、アメリカ・ドイツ合作。原題「Citizenfour」。監督：ローラ・ポイトラス、キャスト：エドワード・スノーデンほか。上映時間114分。第87回アカデミー賞長編ドキュメンタリー映画賞受賞作品。

アメリカ政府のスパイ行為を告発した元CIA職員エドワード・スノーデンによる内部告発事件の真相に迫ったドキュメンタリー。2013年、ドキュメンタリー映画作家であるローラ・ポイトラスに接触してきた者がいた。重大な機密情報を持っていると、香港でのインタビューの現場に現れたのがエドワード・スノーデンだった。彼の口から語られたのはアメリカ政府によるスパイ行為の数々。世界各国の要人、さらに一般国民の電話やインターネット等をも傍受しているという驚くべき真実だった。

